

Rural Economy of the 6 County 7 Villages in the East Hebei Province of the Former Republic China

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36848

中華民国前期冀東地区6県7ヶ村に おける農村経済

弁 納 才 一

はじめに

筆者は、これまで中華民国前期中国農村経済の動向について分析し、北京市と天津市に近接する河北省東部地域(冀東地区)では、農村経済の発展に伴って、脱農化・零細農化・都市化などが進行していたことを概観した¹⁾。

そこで、本稿では、冀東地区農村のうち、さしあたり非棉作・穀物作地の6県7ヶ村について、経営面積・家族人数などがわかっている3県3ヶ村(平谷県小辛寨、遵化県盧家寨、撫甯県王各庄)とそれに加えて家畜数もわかっている4県4ヶ村(灤県雷家莊、撫甯県邴各庄、密雲県小営村、昌黎県中両山)とに分けて脱農化・零細農化の進行状況を分析することにした。

なお、本稿では、主に煩雑さを避けるために、文献資料からの引用部分も含め、原則として算用数字と常用漢字を用いることにした。

I 経営面積・家族人数がわかっている農村

(1) 平谷県小辛寨

小辛寨に関する調査資料には、小作面積が記載されていないので、経営面積別の農家戸数割合と小作農・自小作農・小自作農の経営規模を精確に把握することができない。

表1-1. 小辛寨における非農家33戸及び小作農10戸の状況

職業等	調査番号	家族人数(出稼先・人数, 貸出地面積)
商業	6, 25, 27, 71, 75, 76, 82, 86, 91, 92, 97, 102, 103, 108, 111, 118, 131, 151, 158	3, 5, 4, 2, 3, 1, 3, 2, 9, 3, 4, 4, 4, 6, 4, 6, 3, 4, 6
出稼	11, 24, 77, 117, 141, 157, 163	5(外蒙古1), 4(1), 6(2), 7(外蒙古2), 4(外蒙古1), 3(密雲1), 4(北京1)
長工	74, 84, 110, 122	5, 3, 3, 5
小作農	14, 17, 21(商業を兼ねる), 39, 66, 68, 81, 98, 139, 154	2, 6, 4, 2, 6, 4, 2, 7, 3, 5
地主	132(長工1人を雇傭), 134	4(23畝), 20(46畝)
その他	72(「作活」), 20(乞食)	5, 4

典拠)『冀東地区内二十五箇村農村実態調査報告』第一部上, 119~127頁・133頁より作成。
 なお, 小作農の小作面積は不明である(以下, 同様)。

表1-1を見てみると, 非農家33戸(24.2%)のうち, 商業従事者が19戸(非農家の57.5%)おり, 脱農化がかなり進行していたと言える。また, 出稼ぎ先が明らかな5戸のうち外蒙古が最多の3戸(4人)で, ついで北京や河北省密雲県が各1戸(各1人)いたが, 「満州」への出稼ぎ者の有無は不明である。さらに, 家族の人数, 調査番号134の地主が20人いたが, 非農家と小作農では平均すると4.4人と3人で, かなり少なかった。

表1-2を見てみると, 経営面積20.1畝以上層22戸のうち, 経営面積が最大で, 最大の地主だった調査番号146は, 所有地942畝のうち575畝を自ら経営しているが, 家族の人数(家族内労働力数は不明)が5人とやや少ない上に, 長工を雇傭していないことから, 農作業には家族内労働力以外に多くの短工を雇傭していたと考えられる。そして, 経営面積50.1畝以上層の上位8戸は全て自作農(地主を兼ねる7戸を含む)で, また, 経営面積20.1~50畝層14戸のうち13戸(92.8%)が自作農で, 家族の平均人数は7.1人(50.1畝以上層が7.5人, 20.1~50畝層が7人)とやや多かった。なお, 長工を雇傭する13戸(59%)のうち, 3人の長工を雇用する農家(全て経営面積60畝以上)が3戸もあり, 地主を兼ねながらも, 大規模農業経営を行っていた。一方, 小作農を兼ねる4戸も, 経営規模を拡大していた。

表1-3を見てみると, 経営面積10.1~20畝層20戸のうち, 17戸(85%)が自作農で, 家族の平均人数は7.2人とやや多かったが, 家族の人数が平均よりかなり少ない2戸の自作農が各1人の長工を雇傭していた。

表1-2. 小辛寨の経営面積20.1畝以上層
22戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 貸出	階層等	家族 人数	長 工
146	575(942)	367	自作・地主	5	
144	120(148)	28	自作・地主	7	3
156	80(124)	44	自作・地主	14	3
46	61(71)	10	自作・地主	12	1
47	60(71)	11	自作・地主	8	1
100	60(130)	70	自作・地主	6	3
145	60(60)		自作	5	1
147	53(66)	13	自作・地主	3	1
107	46(46)		自作	7	
48	44(44)		自作・小作	3	1
9	41(41)		自作	5	1
94	39(39)		自作	6	1
16	36(36)		自作・小作	12	
33	33(33)		自作・小作	9	
79	32(32)		自作	7	
106	30.5(30.5)		自作	13	
10	29(29)		自作	6	1
126	28(28)		自作	4	
105	27(27)		自作	3	1
64	25(25)		自作・小作	11	
87	25(25)		自作	2	
65	20.5(20.5)		自作	10	1

典拠) 表1-1に同じ。

表1-3. 小辛寨の経営面積10.1~
20畝層20戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	階層等	家族 人数	長 工
4	20(20)	自作	9	
138	20(20)	自作	5	1
159	20(20)	自作	6	
161	18.5(18.5)	自作	11	
18	18(18)	自作・小作	11	
1	17(17)	自作	8	
96	17(17)	自作・小作	9	
52	16(16)	自作	5	
135	15(15)	自作	9	
95	14(14)	自作	4	
45	13.5(13.5)	自作	5	
36	13(13)	自作	6	
116	13(13)	自作	3	1
120	13(13)	自作	9	
125	13(13)	自作	9	
19	12(12)	自作	3	
160	12(12)	自作	4	
41	11.5(11.5)	自作・小作	8	
61	11.5(11.5)	自作	7	
34	11(11)	自作	5	

典拠) 表1-1に同じ。

表1-4を見てみると、経営面積5.1~10畝層29戸のうち、20戸(68.9%)が自作農で、家族の平均人数は5.1人とやや少なく、長工ないし商業を兼ねる自作農が各1戸いた。なお、調査番号115の1戸のみが長工を雇っていた。

表1-5を見てみると、経営面積2.6~5畝層30戸のうち、21戸(70%)が自作農で、家族の平均人数は4.1人とかなり少なく、また、商業を兼ねる自作農が1戸いたが、長工を雇う農家は1戸もなかった。

表1-4. 小辛寨における経営面積5.1~10畝層29戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	階層等	家族 人数	長 工
44	10(10)	自作・小作	7	
142	10(10)	自作・小作	7	
170	10(10)	自作	2	
43	9.5(9.5)	自作	2	
59	9.5(9.5)	自作・小作	10	
115	9.5(9.5)	自作	8	1
127	9.5(9.5)	自作	5	
29	9(9)	自作	2	
53	9(9)	自作	6	
119	9(9)	自作	6	
121	9(9)	自作	3	
50	8.5(8.5)	自作	3	
69	8.5(8.5)	自作	6	
153	8.5(8.5)	自作・小作	8	
8	8(8)	自作	4	
12	8(8)	自作	5	
63	8(8)	自作・小作	10	
85	7.5(7.5)	自作・長工	3	
31	7(7)	自作・小作	6	
90	7(7)	自作	5	
123	7(7)	自作	2	
152	7(7)	自作・商業	5	
35	6(6)	自作	5	
42	6(6)	自作	8	
58	6(6)	自作・小作	3	
88	6(6)	自作	6	
143	6(6)	自作	5	
155	6(6)	自作・小作	6	
164	6(6)	自作・小作	2	

典拠) 表1-1に同じ。

表1-5. 小辛寨における経営面積2.6~5畝層30戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	階層等	家族 人数
3	5(5)	自作	5
7	5(5)	自作	6
60	5(5)	自作	3
73	5(5)	自作	7
89	5(5)	自作	2
93	5(5)	自作	2
109	5(5)	自作	6
128	5(5)	自作	5
136	5(5)	自作・小作	4
137	5(5)	自作・商業	4
162	5(5)	自作・小作	5
166	5(5)	自作	2
54	4.5(4.5)	自作	4
113	4.5(4.5)	自作・小作	5
140	4.5(4.5)	自作・小作	6
2	4(4)	自作	4
15	4(4)	自作・小作	5
70	4(4)	自作・小作	3
80	4(4)	自作・小作	3
99	4(4)	自作	4
133	4(4)	自作・小作	4
5	3.5(3.5)	自作	5
49	3(3)	自作	6
55	3(3)	自作	3
67	3(3)	自作・小作	4
114	3(3)	自作	2
124	3(3)	自作	2
130	3(3)	自作	7
167	3(3)	自作	2
169	3(3)	自作	3

典拠) 表1-1に同じ。

表1-6を見てみると、経営面積2.5畝以下層25戸のうち、15戸(60%)が自作農で、家族の平均人数は4人とかなり少なく、また、長工ないし商業を兼ねる自作農が各々2戸おり、出稼ぎないし墓守を兼ねる自作農が各1戸いたが、長工を雇傭する農家は1戸もなかった。

表1-6. 小辛寨における経営面積2.5畝以下層25戸の状況

調査番号	経営面積(所有面積)	階層等	家族人数
22	2.5(2.5)	自作	4
37	2.5(2.5)	自作	4
149	2.5(2.5)	自作	2
23	2(2)	自作・小作	5
28	2(2)	自作・小作	5
38	2(2)	自作・小作	2
56	2(2)	自作	4
57	2(2)	自作	4
62	2(2)	自作・小作	6
78	2(2)	自作・出稼	3
101	2(2)	自作	10
104	2(2)	自作	6
112	2(2)	自作・長工	4
129	2(2)	自作	5
148	2(2)	自作	5
150	2(2)	自作・小作	3
165	2(2)	自作・小作	2
26	1.5(1.5)	自作・小作	5
30	1.5(1.5)	自作・小作	4
13	1(1)	自作・小作	3
32	1(1)	自作・墓守	3
40	1(1)	自作・長工	3
51	1(1)	自作・商業	5
83	1(1)	自作・商業	2
168	1(1)	自作・小作	2

典拠) 表1-1に同じ。

以上のように、平谷県小辛寨では、大規模経営農家が多数おり、大地主もいたが、脱農化がかなり進行していた。すなわち、60畝以上の大土地所有者のほとんどは地主を兼ねながらも長工を雇用して農業に従事する自作農であり、自作農の割合は、50.1畝以上層が³100%、20.1~50畝層が³71.4%、10.1~20畝層が³85%、5.1~10畝層が³68.9%、2.6~5畝層が³70%、2.5畝以下層が³60%で、一方、自作農兼小作農の割合は、50.1畝以上層が³0%、20.1~50畝層が³28.5%、10.1~20畝層が³15%、5.1~10畝層が³31%、2.6~5畝層が³30%、2.5畝以下層が³40%となっており、しかも、経営面積が不明な10戸の小作農も相対的に零細経営であると考えられることから、10.1~20畝層を除くと、零細小作農化が進行していたと言える。また、家族の平均人数は、50.1畝以上層が³7.5人、20.1

～50畝層が7人、10.1～20畝層が7.2人、5.1～10畝層が5.1人、2.6～5畝層が4.1人、2.5畝以下層が4人、非農家が4.4人で、20.1～50畝層と非農家を除くと、家族の人数と経営面積との間には正の相関関係を見出すことができる。さらに、経営面積20.1畝以上層では、その上層が長工を雇用するのに対して、その下層は小作地を借入れて規模規模を拡大していた。ただし、経営面積20畝以下層では、経営規模が零細化するに伴って小作農を兼ねる農家の他に商業や長工などを兼ねる農家の割合も高くなっていた。

(2) 遵化県盧家寨

遵化県盧家寨に関する調査資料では、家族の人数と家族内労働力数についても知ることができるのは201戸のうち71戸(35.3%)にすぎない。

表2-1を見てみると、非農家37戸(18.4%)のうち、16戸(非農家の43.2%)が農業労働者(雇農)で、これにつぐ商業従事者8戸と労働者5戸及び保衛団員・教員・医者各1戸などが雇農と同じく計16戸に達し、都市賃金労働者は全くないものの、脱農化はある程度進行していると見なすことができる。また、家族の平均人数と家族内平均労働力数は4.1人と1人で、少なかった。

表2-1. 盧家寨における非農家37戸の状況

職業等	調査番号	家族人数(労働力数)
雇農	2, 5, 13, 36, 65, 71, 85, 92, 101, 148, 151(1畝所有の地主), 169, 171, 180, 193, 194	3(1), 1.3(1), 4(1), 2(0), 2(1), 5(1)
労働	1(大工), 51(靴製造), 106(大工), 161(大工), 189(縄製造)	4(1), 10(1)
商業	14, 16, 20(影芝居役者), 86(党峪で宿屋), 97(肉屋), 103(鍛冶屋), 164, 190(雑貨屋)	4(2), 5(1), 5(1)
その他	98(養蜂), 115(保衛団員), 116(教員), 137(医者)	
無職	91(盲目), 100(乞食), 125, 186	

典拠)『遵化県盧家寨農村実態調査報告』(1936年)67～82頁より作成。なお、表中の「大工」は「木匠」か「木工」の誤りであろうと思われる。

表2-2を見てみると、経営面積50.1畝以上層6戸が全て自作農で(地主を兼ねる1戸を含む)、経営面積20.1～50畝層19戸のうち、17戸(89.4%)が自作農で、また、経営面積20.1畝以上層25戸のうち23戸(92%)が自作農で、自作農が1戸、自作農を兼ねる地主が2戸おり、小作農・小自作農及び雇農を兼ねる農家は1戸もなく、家族の人数が明らかな13戸(52%)の平均人数と家

族内平均労働力数は9.8人と1.8人で、かなり多かった。そして、経営面積50畝以上層の上位7戸は全て自作農で、その中の調査番号33・32・31は長工を各々5人・3人・2人雇用していた。なお、地主を兼ねる農家と商業を兼ねる農家が各々2戸おり、農業外就労者は新京鉄路局に勤務する者を含む3戸(12%)にすぎなかった。

表2-2. 盧家寨における経営面積20.1畝以上層25戸の状況

調査番号	経営面積(所有面積)	家族人数(労働力数)	職業等	備考
72	200(200)		自作	
33	105(105)	9(1)	自作	年雇5人
32	100(100)	17(3)	自作	年雇3人, 遵化1人
17	75(75)	6(1)	自作	
109	72.5(90)		自作・地主	
166	60(60)		自作	
31	50(60)	8(1)	自作	年雇2人, 在外1人
83	44.5(40)		自小作	
60	42.5(42.5)	20(4)	自作・商業	
54	42(42)	12(3)	自作・商業	雑貨屋
108	42(42)		自作	
200	40.5(20.5)		自小作	
24	40(40)	5(3)	自作	
28	40(40)	10(2)	自作	
119	40(82)		地主・自作	
82	38(38)		自作	
118	34(34)		自作	
84	32(32)		自作	
23	30(90)	8(0)	地主・自作	
29	27(27)	5(2)	自作	
67	25(25)	10(1)	自作	
111	25(25)		自作	
18	23.5(23.5)	9(1)	自作	
68	23(23)	9(2)	自作	新京鉄路局1人
110	22(22)		自作	

典拠) 表2-1に同じ。

表2-3を見てみると、経営面積15.1~20畝層20戸のうち、16戸(80%)が自作農で、家族の人数が明らかな6戸の平均人数は6.6人とやや多いものの、経営面積20.1畝以上層のそれよりもかなり少ないが、家族内の平均労働力数は2人と多く、経営面積20.1畝以上層のそれよりもやや多かった。なお、商業を兼ねる農家は2戸にすぎなかった。一方、経営面積10.1~15畝層29戸のう

表2-3. 盧家寨における経営面積10.1~20畝層49戸の状況

調査番号	経営面積(所有面積)	家族人数(労働力数)	職業等	備考
15	20(20)	8(2)	自作・商業	
57	20(20)	3(1)	自作	
128	20(20)		自作	
183	20(20)		自作	
198	20(20)		自作	
117	19(19)		自作	
181	19(19)		自作	
96	18(11)		自小作	
104	18(13)		自小作・商業(豆腐屋)	
157	18(18)		自作	
170	18(18)		自作	
199	18(18)		自作	
107	17(17)		自作	
112	17(17)		自作	
141	17(11)		自小作	
158	17(15)		自小作	
26	16(16)	7(2)	自作	
48	16(16)	5(1)	自作	
50	16(16)	8(3)	自作	
159	16(16)		自作	
19	15.5(15.5)	5(1)	自作	
46	15(15)	7(2)	自作・労働(左官)	
55	15(15)	8(3)	自作・農業労働	
120	15(15)		自作	
136	15(15)		自作	
140	15(15)		自作・農業労働	
168	15(15)		自作	
201	15(30)		地主・自作	
30	14(14)	2(1)	自作	年雇1人, 灤県師範
142	14(14)		自作	
153	14(14)		自作	
53	13(8)	5(2)	自小作	2人(満州)
76	13(8)		自小作・商業	染物屋
105	13(10)		自小作	
163	13(8)		自小作	
196	13(13)		自作	
25	12.5(12.5)	6(2)	自作	
52	12(12)	5(1)	自作	
61	12(12)	8(2)	自作・農業労働	
62	12(6)	4(2)	自小作	
127	12(12)		自作	果樹園
129	12(4)		自小作・農業労働	
175	12(12)		自作	
197	12(12)		自作	
9	11.5(4.5)	9(2)	自小作	2人(唐山炭鋏)
152	11.5(10)		自小作	
8	11(6)	7(1)	自小作・農業労働	
44	11(7)	8(3)	自小作・労働	大工, 隣村で年工
121	11(11)		自作	
172	11(11)		自作	

典拠) 表2-1に同じ。

ち、19戸(65.5%)が自作農で、農業外就労者 6 戸(自作農 2 戸, 自小作農 3 戸, 自小作農 1 戸)のうち 4 戸は村外で働いていた。そして、家族の人数が明らかな 11 戸の平均人数と家族内平均労働力数は 6.2 人と 1.6 人だった。なお、7 戸が雇農(2 戸は長工)を兼ね、2 戸が職人を兼ね、満州への出稼ぎや商業・左官・「大工」を兼ねる農家、灤県師範学校と唐山炭鉱で働いている農家が各 1 戸(計 5 戸)いた。

表 2-4 を見てみると、経営面積 5.1~10 畝層 44 戸のうち、26 戸(59%)が自作農で、家族の人数が明らかな 13 戸の平均人数と家族内平均労働力数は 5.3 人と 1.1 人で、やや少なかった。また、雇農を兼ねる農家と商業・出稼ぎ・職人・医者・寺守などの農業外就労者は各々 9 戸だった。

表 2-5 を見てみると、経営面積 5 畝以下層 45 戸のうち、40 戸(88.8%)が自作農で、25 戸(55.5%, 自作農 21 戸)が雇農を兼ねていた。また、家族の人数が明らかな 17 戸の平均人数と家族内平均労働力数は 3.9 人と 1 人で、やや少なかった。さらに、職人・商業などの農業外就労者は 6 戸にすぎなかった。

以上のように、遵化県盧家寨では、平谷県小辛寨ほどではないが、やはり一定程度脱農化が進行しており、自作農の割合は、50.1 畝以上層が 100%、20.1~50 畝層が 89.4%、15.1~20 畝層が 80%、10.1~15 畝層が 65.5%、5.1~10 畝層が 59%、5 畝以下層が 88.8% となっており、一方、小作農の割合は、10.1 畝以上層が 0%、5.1~10 畝層が 4.5%、5 畝以下層が 4.4% となっており、経営面積 20.1 畝以上層の自作農の割合が最も高かったものの、これにつぐのが 5 畝以下層であることなどから、全体として零細自作農化がかなり進行していたと言える。また、家族の平均人数・家族内平均労働力数は、20.1 畝以上が 9.8 人・1.8 人、15.1~20 畝層が 6.6 人・2 人、10.1~15 畝層が 6.2 人・1.6 人、5.1~10 畝層が 5.5 人・1.1 人、5 畝以下層が 3.9 人・1 人、非農家が 4.1 人・1 人で、経営面積と家族・家族内労働力の人数との間には相関関係が見られる。さらに、農業外就労者は、50.1 畝以上層が 0%、20.1~50 畝層が 15.8%、15.1~20 畝層が 10%、10.1~15 畝層が 17.2%、5.1~10 畝層が 20.4%、5 畝以下層が 13.3% で、各層間の較差はさほど大きくない。

表2-4. 盧家寨における経営面積5.1～10畝層44戸の状況

調査番号	経営面積(所有面積)	家族人数(労働力数)	職業等	備考
63	10(10)	4(1)	自作・労働	屋根葺き
69	10(10)	4(2)	自作・労働	左官, 1人(満州)
95	10(10)		自作	
114	10(0)		小作・医者	
126	10(0)		小作・寺守	
138	10(10)		自作	
147	10(10)		自作	
165	10(10)		自作	
188	10(10)		自作	
195	10(5)		自小作	
73	9(9)		自作	
87	9(9)		自作	
145	9(4)		自小作	
173	9(4)		自小作・農業労働	
27	8(8)	8(2)	自作・商業	2人(唐山で商人, 満州)
49	8(4)	6(1)	自小作・農業労働	
59	8(8)	5(1)	自作・労働	
130	8(8)		自作	
146	8(8)		自作	
191	8(1)		自小作	
4	7.5(2)	3.5(1)	自小作・農業労働	
21	7.5(2.5)	5.5(1)	自小作・農業労働	
75	7.5(1.5)		自小作・商業	豆腐屋
77	7.5(1.5)		自小作	
3	7(4)	5(1)	自小作・農業労働	
7	7(6)	5(1)	自小作	
66	7(2)	8(1)	自小作	2人(隣村出稼, 満州)
74	7(7)		自作	
80	7(7)		自作	
124	7(7)		自作	
149	7(5)		自小作	
155	7(7)		自作	
156	7(7)		自作	
202	7(7)		自作	
81	6.5(6.5)		自作	
90	6.5(1.5)		自小作・農業労働	
34	6(6)	7(1)	自作・商業	
79	6(6)		自作	
123	6(6)		自作	
139	6(6)		自作	
143	6(4)		自小作・農業労働	
150	6(5)		自小作・農業労働	
58	5.5(5.5)	6.5(1)	自作・農業労働	
64	5.5(5.5)	4(1)	自作	

典拠) 表2-1に同じ。

中華民国前期冀東地区6県7ヶ村における農村経済 (弁納)

表2-5. 盧家寨における経営面積5畝以下層45戸の状況

調査番号	経営面積(所有面積)	家族人数(労働力数)	職業等	備考
43	5(5)	3(2)	自作・農業労働	
78	5(5)		自作	
134	5(5)		自作・農業労働	
177	5(5)		自作・労働	大工, 石工
179	5(5)		自作	
88	4.5(4.5)		自作	
40	4(4)	3(1)	自作・農業労働	
56	4(4)	2(1)	自作・農業労働	
70	4(4)	2(1)	自作	
93	4(4)		自作	
133	4(4)		自作	
160	4(4)		自作	
12	3(0)	4(1.5)	小作・農業労働	
35	3(3)	5(1)	自作・農業労働	
41	3(3)	3(1)	自作・農業労働	
89	3(3)		自作・農業労働	
94	3(3)		自作	
144	3(3)		自作・農業労働	
167	3(3)		自作・商業	
187	3(3)		自作	
6	2(2)	6(1)	自作・農業労働	
22	2(2)	3.5(1.5)	自作・農業労働	
42	2(2)	3(1)	自作・農業労働	
45	2(2)	6(1)	自作・農業労働	1人(隣村で年工)
47	2(2)	2(0)	自作・農業労働	2人(隣村で年工)
113	2(2)		自作・商業	染物屋
122	2(2)		自作・商業	縄製造
131	2(2)		自作・農業労働	
132	2(2)		自作・農業労働	
162	2(2)		自作・農業労働	
174	2(2)		自作	
176	2(2)		自作	
178	2(0)		小作・労働	菓子製造職人
184	2(2)		自作	
185	2(2)		自作	
11	1.5(0.5)	6(1)	自小作・農業労働	
37	1.5(0.5)	5(0)	自小作・農業労働	
135	1.5(0.5)		自小作・農業労働	
10	1(1)	4(1)	自作・農業労働	
39	1(1)	6(1)	自作・労働	大工
99	1(1)		自作・農業労働	
192	1(1)		自作	
38	0.5(0.5)	4(1)	自作・農業労働	
102	0.5(0.5)		自作・農業労働	
154	0.5(0.5)		自作・農業労働	

典拠) 表2-1に同じ。

(3) 撫甯県王各庄

王各庄に関する調査資料には、小作面積の記載がなく、経営面積別による農家戸数と小作農や自小作農・小自作農の経営規模を把握することができない。

表3-1を見てみると、非農家11戸(18.3%)のうち、6戸が地主だったが、165畝を所有する調査番号60以外は全て所有地15畝以下の小地主だった。また、家族の人数は、165畝を所有する地主は17人だったが、平均すると4.7人と少なかった。さらに、商業など農業外就労者は3戸にすぎなかった。

表3-1. 王各庄における非農家11戸の状況

職業等	調査番号(地主貸出地, 備考)	家族人数
地主	9(15畝, 戸主が満州出稼), 15(2.5畝), 18(2.5畝), 41(2.5畝), 48(3.65畝, 長男が他村で商業), 60(165畝)	5, 3, 1(老婆), 4, 3, 17
商業	13(戸主が台営で商業, 長男が満州出稼), 27(行商)	7, 4
無職	24(寡婦, 子供4人), 25(寡婦)	5, 1
不明	31	2

典拠)『冀東地区内二十五箇村農村実態調査報告』第一部下, 337~340頁より作成。

表3-2を見てみると、経営面積20.1畝以上層11戸のうち、小自作農が6戸(60%)と多数を占め、家族の平均人数は9.2人とかなり多く、しかも、経営面積が50畝だった1戸以外は、全て30畝以下で、大規模経営の農家は1戸もなく、また、経営面積10.1~20畝層16戸のうち、自作農(地主を兼ねる2戸を含む)と小自作農が各7戸(43.7%)で、家族の平均人数は5.1人とやや少なかった。

表3-3を見てみると、経営面積10畝以下層22戸のうち、13戸(59%)が自作農で、自小作農と小自作農が各4戸にすぎず、家族の平均人数は4.9人とかなり少なかった。

以上のことから、撫甯県王各庄では、遵化県盧家寨よりも脱農化が進行していたとは言えないが、自作農の割合は、20.1畝以上層が18.1%、10.1~20畝層が43.7%、10畝以下層が59%となっており、零細自作農化が進行していたと言える。また、家族の平均人数は、20.1畝以上層が9.2人、10.1~20畝層が5.1人、10畝以下層が4.9人、非農家が4.7人で、家族の人数と経営面積との間には正の相関関係が見られた。

表3-2. 王各庄における経営面積10.1畝以上層27戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	小作借入	地主貸出	階層等	家族人数	備考
38	50(167.5)		117.5	地主・自作	15	
46	30(55)		25	自作・地主	11	
53	30(60)		30	自小作	9	
1	27.5(7.5)	20		小自作	6	
6	27.5(5)	22.5		小自作	11	1人が満州出稼
57	27.5(15)	12.5		自小作	10	
20	25(2.5)	22.5		小自作	8	3人共同で1工借地
55	25(5)	20		小自作	13	
5	22.5(20)	2.5		自小作	7	
7	22.5(7.5)	15		小自作	7	
47	22.5(7.5)	15		小自作	5	
2	20(5)	15		小自作	5	
11	20(7.5)	12.5		小自作	2	
23	20(20)			自作	7	
33	20(5)	15		小自作	6	
3	17.5(5)	12.5		小自作	4	
4	15(0)	15		小作	6	
19	15(25)		10	自作・地主	12	長男と次男が新京で職人
21	15(5)	10		小自作	4	
59	15(15)			自作	7	
51	15(15)			自作	8	
29	12.5(2.5)	10		小自作	2	
35	12.5(5)	7.5		小自作	5	
45	12.5(12.5)			自作	6	
58	12.5(12.5)			自作	4	
52	12.5(15)		2.5	自作・地主	2	
56	11.25(1.25)	10		小自作	3	

典拠) 表3-1に同じ。

表3-3. 撫甯県王各庄における経営面積10畝以下層22戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	小作借入	階層等	家族人数	備考
16	10(2.5)	7.5	小自作	5	
28	10(10)		自作	11	入典地
37	10(5)	5	自小作	6	
49	10(5)	5	自小作	4	
50	10(10)		自作	2	
34	8.75(5)	3.75	自小作	5	
12	7.5(2.5)	5	小自作	3	3人共同で1工借地
17	7.5(2.5)	5	小自作	6	
39	7.5(2.5)	5	小自作	6	
8	5(5)		自作	3	戸主が満州出稼
10	5(5)		自作	6	
14	5(2.5)	2.5	自小作	10	出典1工, 2人が満州・村外出稼
22	5(5)		自作	1	
32	5(5)		自作	5	
36	5(5)		自作	3	
40	5(5)		自作	9	2人が満州出稼
42	5(5)		自作	3	
43	5(5)		自作	8	
26	2.5(2.5)		自作	4	
30	2.5(2.5)		自作	3	
44	2.5(0)	2.5	小作	4	
54	2.5(2.5)		自作	2	

典拠) 表3-1に同じ。

II 経営面積・家族人数・家畜数などがわかっている農村

(1) 灤県雷家荘

雷家荘に関する調査資料には、家族の人数と家族内の成年男子の人数及び備考において大車と牛・驢馬の所有状況や勤務先などが記載されている。

表4-1を見てみると、非農家36戸(46.7%)のうち34戸(94.4%)が石工をやっており、地主(1戸)・商業(2戸)・都市労働者(4戸)・出稼(1戸)などが極めて少なかった。このうち、調査番号36は、同村内で唯一の地主だったが、その所有地は6畝にすぎなかった。また、家族の平均人数は5.6人とやや少なく、成年男子の平均人数は1.8人だった。

表4-1. 雷家荘における非農家36戸の状況

職業等	調査番号	家族人数(成年男子数)
石工	4, 10, 11, 17, 18, 20, 23, 27, 34, 37(1人は満州郭家店で), 39, 44, 46, 53, 54, 56, 57, 60, 61, 64, 66, 71, 73, 75, 77	6(1), 7(3), 9(4), 3(2), 5(2), 7(3), 2(1), 3(1), 5(2), 5(3), 6(1), 6(1), 5(1), 6(2), 7(2), 4(2), 8(2), 7(1), 4(1), 5(2), 7(3), 3(1), 4(1), 8(2), 8(2)
農工	14	6(3)
農日工	45, 67	8(2), 4(1)
賃労働	[唐山の華新紗廠] 3(弟), 6(1人)	8(2), 7(2)
会社外工	[啓新セメント会社] 72(1人), 76(1人)	8(5), 7(2)
貸家	28	4(1)
地主	36(所有地6畝を出典)	2(1)
雑貨行商	58(他村より移住)	4(1)
その他	63(戸主が豊潤で商店住み込み)	4(1)

典拠)『冀東地区内二十五箇村農村実態調査報告』第一部下, 217~221頁より作成。

表4-2を見てみると、経営面積20.1畝以上層2戸はともに経営面積が30畝にすぎず、零細農化がかなり進行していたと言える。一方、経営面積5.1畝以上層20戸の自作農の割合は、20.1畝以上層が50%、10.1~20畝層が60%、5.1~10畝層が92.3%で、経営面積に占める小作地の割合(小作地率)は12%だった。また、家族の平均人数は9.7人とかなり多く、成年男子の平均人数は3人で、非農家のそれよりも多かった。さらに、牛・驢馬を所有する農家は1戸・5戸(このうち2戸が驢馬1頭を共有)にすぎず、大車を所有する農家も2戸にすぎなかった。なお、経営面積14畝以下層16戸のうち15戸が石工を副業とし、2戸が村外で賃金労働者として働き、また、4戸の小作農のうち、啓新セメント会社と開灤鋤務局を地主とする農家が各々3戸と1戸いた。

表4-3を見てみると、経営面積5畝以下層21戸のうち、自作農の割合は、2.6~5畝層が70%、2.5畝以下層が100%だったことから、経営面積が狭小な零細農ほど自作農の割合が高い傾向にあり、小作地率は12.7%だった。また、家族・成年男子の平均人数は6.5人・2人で、やや多く、非農家のそれよりも多かった。さらに、子牛1頭を所有するのは1戸のみで、大車を所有する農家は1戸もいなかった。なお、全農家が石工を副業とする以外に、2人(2戸)が鉄道工場と啓新セメント会社の賃金労働者だった。

表4-2. 雷家荘における経営面積5.1畝以上層20戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	階層等	家族人数 (成年男子数)	副業	備考
38	30(30)	自作	8(1)	—	年工1人雇傭。牛1頭・大車1台。
74	30(20)	自小作	11(3)	—	地主は開灤鉱務局。次男は徳昌磁廠に勤務。
12	20(20)	自作	11(4)	—	2人が農耕従事。2人が村外労働。
68	15(10)	自小作	9(3)	—	地主は啓新セメント会社。驢馬1頭。
1	14(2)	自小作	18(4)	石工	地主は啓新セメント会社
40	12.5(12.5)	自作	14(6)	石工	4～5人が石工
21	12(12)	自作	6(2)	石工	
30	10(10)	自作	5(2)	—	子驢馬1頭
41	10(10)	自作	17(5)	石工	
43	10(10)	自作	10(6)	石工	
55	10(10)	自作	5(2)	石工	
62	10(10)	自作	21(7)	石工	
47	9(7)	自小作	12(3)	石工	地主は啓新セメント会社
33	8(8)	自作	6(1)	石工	
25	7(7)	自作	7(2)	石工	昨年分家し驢馬1頭を共有
26	7(7)	自作	8(2)	石工	
31	7(7)	自作	3(1)	石工	
70	6.5(6.5)	自作	9(3)	石工	
8	6(6)	自作	10(2)	石工	驢馬1頭・大車1台。隣長。
32	6(6)	自作	4(1)	石工	

典拠) 表4-1に同じ。なお、調査番号12の「村外労働」は北寧鉄路塘沽駅勤務と奉天での商売である。

以上のことから、灤県雷家荘では、非農家が46.7%を占め、大規模経営がほとんど見られず、脱農化が非常に進行し、自作農の割合は、20.1畝以上層が50%、10.1～20畝層が60%、5.1～10畝層が92.3%、2.6～5畝層が70%、2.5畝以下層が100%で、小作地率は、10.1畝以上層が20.2%、5.1～10畝層が1.8%、5畝以下層が12.7%だったことから、零細自作農化がかなり進行しており、副業の石工や工場(華新紗廠、鉄道工場、徳昌磁廠)・会社(啓新セメント会社、北寧鉄路局)での勤務がそれを可能にしており、実質的な脱農化がかなり進行していたと言える。また、大車や家畜の所有数は極めて少なく、さらに、家族・成年男子の平均人数は、10.1畝以上層が11人・3.2人、5.1～10畝層が9.3人・3人、5畝以下層が6.5人・2人、非農家が5.6人・1.8人で、家族・成年男子の人数と経営面積との間には正の相関関係を見出すことができる。なお、啓新セメント会社に勤務する者と同社を地主(小作地は計14畝)とする者が

表4-3. 雷家荘における経営面積5畝以下層21戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	階層等	家族人数 (成年男子数)	副業	備考
2	5(5)	自小作	8(2)	石工	子牛1頭
13	5(5)	自作	7(3)	石工	
42	4(0)	小作	7(2)	石工	地主は張各荘の張
59	4(4)	自作	2(1)	石工	
65	4(4)	自作	2(1)	石工	
5	3(3)	自作	12(3)	石工	
15	3(0)	小作	3(1)	石工	地主は同村胡家
19	3(3)	自作	9(4)	石工	
48	3(3)	自作	9(3)	石工	弟が埔口の鉄道工場に勤務
52	3(3)	自作	6(2)	石工	
16	2.5(2.5)	自作	6(2)	石工	
22	2(2)	自作	5(1)	石工	
29	2(2)	自作	7(2)	石工	戸主が啓新セメント会社に勤務
35	2(2)	自作	6(2)	石工	
50	2(2)	自作	9(2)	石工	
69	2(2)	自作	5(2)	石工	
9	1.5(1.5)	自作	7(3)	石工	
24	1.5(1.5)	自作	7(2)	石工	
49	1.5(1.5)	自作	10(2)	石工	
7	0.5(0.5)	自作	4(1)	石工	
51	0.5(0.5)	自作	6(2)	石工	

典拠) 表4-1に同じ。

各々3戸おり、同村と啓新セメント会社との関わりはやや深いと言える。

(2) 撫甯県邳各庄

邳各庄に関する調査資料には、家族の人数と家畜の所有数及び備考において農業外就労状況などが記載されている。

表5-1を見てみると、非農家24戸(21.2%)のうち、14戸(12.3%、非農家の58.3%)が地主で、そのうち不在地主を除く12戸の地主の小作地は全て50畝以下で、平均すると17畝余りだった。一方、農地無所有の商業従事者は3戸にすぎないが、14戸の地主のうち4戸も商業に従事しており、商業従事者は計7戸とやや多かった。また、家族の平均人数(同村内に家族の誰も居住しない3戸を除く)は3.4人とかなり少なかった。さらに、非農家であるため、全体として家畜の所有数はそれほど多くはないが、豚・鶏を所有する農家が5

戸(6匹)・11戸(23羽)いた。なお、2戸の不在地主と3戸の無職者を除く19戸のうち、村外で働く者が13戸(54.1%)に達していた。

表5-1. 邨各庄における非農家24戸の状況

調査番号	地主貸出	職業等	家族人数	家畜数		備考
				豚	鶏	
37	130	地主	—			不在地主(县城)
67	70	地主	—			不在地主(县城)
111	50	地主	5		2	
53	32	地主	4		4	戸主が奉天で職人
97	27.5	地主	5	1	2	戸主が満州で商業
102	18	地主	6	2	2	長男が満州出稼
50	17.5	地主	5			戸主が満州で商業
39	15	地主	3			
51	12	地主	3	1	1	戸主が吉林で商業
89	11.5	地主	2	1	2	
21	10	地主	2		2	老夫婦
71	6	地主	5			長男が満州で商業
92	5	地主	2		2	
26	4	地主	2		2	
29		商業	5		2	戸主と長男が奉天で商業
33		商業	5			戸主が満州で商業
65		商業	4			油行商
30		その他	—			县城で旅棧
32		その他	4	1	2	県政府役人
34		その他	2			長男が兵士
105		その他	4			戸主が奉天で奉公
16		無職	2			老夫婦
48		無職	1			老婆
75		無職	1			老婆

典拠)『冀東地区内二十五箇村農村実態調査報告』第一部下, 318~324頁より作成。

表5-2を見てみると、全農家の経営面積が45畝以下で、大規模経営農家は1戸もなく、しかも、経営面積20.1畝以上層16戸のうち、地主と自作農が1戸もなく、自小作農と小自作農が各々5戸で、小作農が6戸(37.5%)おり、同村内最大の経営面積45畝を有する農家は40畝が小作地である小自作農で、また、これに次ぐ経営面積40畝を有する4戸のうち3戸は農地無所有の小作農だった。そして、6戸(37.5%)が土地無所有で、平均土地所有面積は7.3畝にすぎないことから、多くの土地無所有戸や零細土地所有戸が、小作地を借

入れて経営規模を拡大していたことがわかる。ちなみに、小作地率は、75.7%と非常に高かった。また、家族の平均人数は7.2人とやや多かった。さらに、馬・騾馬を所有する農家は各1戸にすぎず、14戸(87.5%)が驢馬13頭を所有ないし共有し、また、14戸が豚28匹を所有し、全農家が2羽以上の鶏を所有していた。なお、満州への出稼ぎと商業従事者は各2戸(3人と4人)にすぎなかった。

表5-2. 柳各庄における経営面積20.1畝以上層16戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	職業等	家族 人数	家畜数					備考
					馬	騾馬	驢馬	豚	鶏	
63	45(5)	40	小自作	8			1	2	2	
4	40(0)	40	小作	4		1		4	5	
7	40(20)	20	自小作	12			1		4	男児2人が満州出稼
8	40(0)	40	小作	5	1			1	2	男児1人が満州出稼
40	40(0)	40	小作	5			1	1	2	
1	32(2)	30	小自作	6			1		2	男児3人が満州で商業
52	32(14)	18	小自作	8			1	2	3	
57	30(20)	10	自小作	7			1	2	3	
68	30(0)	30	小作	8			1	2	2	
23	25(4)	21	小自作	5			0.5	1	2	
41	25(20)	5	自小作	9			1	4	2	
58	25(0)	25	小作	10			1	1	2	油製造行商
74	25(0)	25	小作	9			0.5	2	2	
104	24(19)	5	自小作	8			1	2	2	
18	21(8)	13	自小作	4			1	2	2	
99	21(6)	15	小自作	8			1	2	2	

典拠) 表5-1に同じ。

表5-3を見てみると、経営面積10.1~20畝層27戸のうち、自作農が8戸(29.6%、地主を兼ねる3戸を含む)、自小作農と小自作農が計10戸(37%)、小作農が9戸だった。そして、この3戸の地主のうち、調査番号38は100畝を小作地とする同村内最大の在村地主だったのに対して、その他の2戸の地主は各々5畝を貸出すにすぎなかった。一方、9戸が土地無所有で、小作地を除く平均土地所有面積は7.2畝にすぎず、小作地率は52.7%と高かった。また、家族の平均人数は5.8人とやや少なかった。さらに、馬を所有する農家が1戸のみで、驢馬を所有ないし共有する農家が13戸(10頭)にすぎないのに対して、

豚・鶏を所有する農家は22戸(81.4%, 35匹)・26戸(96.2%, 54羽)いた。なお、商業従事者が4戸(5人, そのうち4戸が村外に居住)いた。

表5-3. 郡各庄における経営面積10.1~20畝層27戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	地主 貸出	職業等	家族 人数	家畜数				備考
						馬	驢馬	豚	鶏	
28	20(0)	20		小作	7			1	2	男児が奉天で商業
38	20(120)		100	地主・自作	12			5	6	
56	20(20)			自作	5		1	2	3	
84	20(20)			自作	6		1	2	2	
61	19(13)	6		自小作	8		1	1	2	
86	17.5(13.5)	4		自小作	8		1	2	3	
31	17(22)		5	自作・地主	7		0.5	2	3	長男・次男が満州で商業
83	17(0)	17		小作	6		1		3	
2	15(3)	12		小自作	4			1	2	男児が他村で商業
19	15(0)	15		小作	6				1	次男が郷丁, 三男が商業
25	15(5)	10		小自作	6		0.5	1	2	
27	15(0)	15		小作	7				2	
64	15(15)			自作	6		0.5	1	1	
80	15(5)	10		小自作	9		0.5	1	1	
82	15(0)	15		小作	4			1	2	
70	15(0)	15		小作	8		0.5	1	2	
73	15(10)	5		自小作	5				1	
100	15(1)	14		小自作	6			2	3	
47	14(0)	14		小作	2			1	2	
95	14(14)			自作	5	1		2	1	
43	13(0)	13		小作	6			3	2	
24	12.5(4.5)	8		小自作	4			2	2	
49	12.5(17.5)		5	自作・地主	4		0.5	1	2	
20	12(10)	2		自小作	3		1	1	2	
35	12(1)	11		小自作	5			1	1	
45	12(0)	12		小作	4					
93	11(11)			自作	5		1	1	1	

典拠) 表5-1に同じ。

表5-4を見てみると、経営面積5.1~10畝層30戸のうち、自作農が10戸(地主を兼ねる2戸を含む)、自小作農と小自作農が計5戸、小作農が15戸おり、平均土地所有面積は3.4畝にすぎず、小作地率は59.8%と高かった。また、家族の平均人数は4.7人とかなり少なく、馬・驢馬を所有する農家が各1戸で、驢馬を所有ないし共有する農家が14戸(46.6%, 9.1頭)にすぎないのに対して、

豚・鶏を所有する農家は19戸(63.3%, 26匹)・26戸(86.6%, 48羽)いた。なお、出稼ぎ・行商・役人・兵士などの農業外就労者が9戸いた。

表5-4. 兩各庄における経営面積5.1~10畝層30戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	地主 貸出	階層等	家族 人数	家畜数				備考
						騾馬	驢馬	豚	鶏	
11	10(0)	10		小作	8		0.3	1	1	戸主・長男が満州出稼
15	10(0)	10		小作	2		0.3	1	3	村内で行商
17	10(0)	10		小作	7				2	指物師
22	10(10)			自作	3				3	郷書記
54	10(0)	10		小作	3			1	2	
77	10(0)	10		小作	4		0.5	1	3	
66	10(6)	4		小自作	8		1	1	1	
85	10(10)			自作	2			1	1	
88	10(0)	10		小作	4		1	1	2	
90	10(10)			自作	7		0.5	1	2	
91	10(10)			自作	5		0.5	2	2	
108	10(0)	10		小作	4	1	1		1	
112	10(0)	10		小作	2		0.5		2	廟番人
62	9(6)	3		小自作	7		1	1	1	
10	9(4)	5		小自作	6			1	1	戸主が県役人
44	9(0)	9		小作	3			1	3	
94	8(8)			自作	8				3	
101	8(38)		30	地主・自作	5			1	4	
103	8(2)	6		小自作	2				2	
113	8(12)		4	自作・地主	7					郷長
13	8(0)	8		小作	4			1	1	戸主が郷丁
42	8(0)	8		小作	3			2	2	
36	7(0)	7		小作	6					長男が兵士
109	7(0)	7		小作	4					
87	6.5(2.5)	4		小自作	7				1	
12	6(0)	6		小作	7		1	6		
96	6(6)			自作	3			1	1	
106	6(6)			自作	4		0.5	1	1	
107	6(6)			自作	4		0.5		2	戸主が奉天で奉公
110	6(0)	6		小作	4		0.5	1	2	

典拠) 表5-1に同じ。

表5-5. 郡各庄における経営面積5畝以下層16戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	地主 貸出	階層等	家族 人数	家畜数		備考
						豚	鶏	
46	5(2)	3		小自作	1			
55	5(5)			自作	1			
60	5(0)	5		小作	7		2	5人が奉天で商業
76	5(10)		5	自作・地主	4	1	2	長男が満州で商業
78	5(0)	5		小作	6		1	
79	5(5)			自作	3		3	次男が満州へ出稼
81	5(29)		24	地主・自作	6		3	
98	4.5(9)		4.5	自作・地主	7		1	
6	4(0)	4		小作	5	1	4	
14	4(4)			自作	3	1	2	
69	4(7.5)		3.5	自小作	4	1	2	
72	4(0)	4		小作	1			
3	3(3)			自作	8	1	2	男児1人が緩中県で大工
9	3(3)			自作	4		1	戸主が満州へ出稼
59	2.5(0)	2.5		小作	2			
5	1.5(0)	1.5		小作	2	1	2	

典拠) 表5-1に同じ。なお、調査番号69は自作農兼地主の誤りであろう。

表5-5を見てみると、経営面積5畝以下層16戸のうち、自作農が8戸(50%、地主を兼ねる3戸を含む)、小作農が6戸あり、平均所有面積は2.5畝にすぎず、小作地率は45%と高く、家族の平均人数は4人とかなり少なく、豚を所有する農家が6戸(6匹)にすぎず、鶏を所有する農家は12戸(25羽)だった。なお、満州への出稼ぎと満州での商業従事者が各2戸、同村外での「大工」を合わせると、5戸(31.2%)にも達し、脱農化が進行していることがわかる。

以上のことから、撫甯県郡各庄では、土地無所有戸が46戸(40.7%)で、所有面積10畝以下層が35戸(30.9%、このうち所有面積5畝以下層が18戸)だったことから、非常に多くの家が農地から切り離され、あるいは、切り離されつつあったにもかかわらず、農業から離脱していないことがわかる。そして、自作農の割合は、20.1畝以上層が0%、10.1~20畝層が29.6%、5.1~10畝層が33.3%、5畝以下層が50%となっており、一方、小作農の割合は、20.1畝以上層が37.5%、10.1~20畝層が33.3%、5.1~10畝層が50%、5畝以下層が37.5%となっており、また、小作地率は、20.1畝以上層が75.7%、10.1~20畝

層が52.7%、5.1～10畝層が59.8%、5畝以下層が45%だったことから、零細自作農化と零細小作農化がほぼ並進していたと言える。また、家族の平均人数は、20.1畝以上層が7.2人、10.1～20畝層が5.8人、5.1～10畝層が4.7人、5畝以下層が4人、非農家が3.4人で、家族の人数と経営面積との間には正の相関関係が見られる。さらに、馬と騾馬を所有する農家の経営面積は40畝(小作農)・14畝(自作農)と40畝(小作農)・10畝(小作農)と極めて少ないのに対して、経営面積6畝以上層の多くの農家が驢馬を所有ないし共有していたが、多くの非農家と農家が豚や鶏を所有しており、経営面積と家畜の所有数との間にはそれほど明確な正の相関関係を見出すことはできない。なお、同村の大土地所有者の所有面積を見てみると、130畝(不在地主)、120畝(20畝を経営する地主)、70畝(不在地主)などとなっているが、この3戸は1戸が豚5匹と鶏6羽を所有する以外に家畜を全く所有せず、長工も雇用していなかった。

(3) 密雲県小営村

小営村に関する調査資料には、家族の人数、家族内労働力数、家畜数及び備考において長工の雇用状況、自転車の所有台数、農業外就労状況などが記載されている。

表6-1を見てみると、非農家が全て地主で、調査番号2(学校共有地)を除く8戸(5.2%)の地主のうち5戸は農業外収入があり、調査番号1の地主は、驢馬2頭・豚2匹・鶏4羽・犬1匹を所有し、しかも、長工を1人雇用しており、その土地所有面積から見て同村内最大の地主だった。また、家族の平均人数は3.5人とかなり少なく、家族内平均労働力数は1.1人だった。さらに、牛・馬・騾馬を所有する地主は1戸もなく、驢馬を所有ないし共有する地主も2戸(2.5頭)にすぎないのに対して、豚・鶏・犬を所有する地主は半数以上の4戸(6匹)・5戸(11羽)・6戸(6匹)いた。なお、調査番号5(吏員)と調査番号7(教員)が通勤手段と考えられる自転車を各1台所有している。

表6-1. 小管村における地主9戸の状況

調査 番号	所有面積	兼業等	家族人数 (労働力数)	家畜数				備考
				驢馬	豚	鶏	犬	
1	150		5(1)	2	2	4	1	長工1人
5	87	吏員	4(2)			4		自転車1台
6	63	会社員	2(1)		2		1	—
2	60	(学校共有地)	—					—
3	40		2(1)			1	1	—
7	36	教員	3(2)		1		1	自転車1台
8	11.5	労働	5(0)		1	1	1	—
4	10.5		1(1)			1		—
9	10	商業	6(1)	0.5			1	雑貨店

典拠)『冀東地区内二十五箇村農村実態調査報告』冀東地区農村実態調査報告第一部上(冀東地区農村実態調査班, 1936年)64~73頁より作成。なお, 同調査表には戸主の氏名が列挙されているのみであるが, 筆者が同調査表の記載順に調査番号を付した(以下, 同様)。

表6-2. 小管村における経営面積50.1畝以上層11戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	兼業等	家族人数 (労働力数)	家畜数							備考
				牛	馬	騾馬	驢馬	豚	鶏	犬	
19	240(300)	自小作・地主	20(11)	2	1	3	1	22		3	長工5人, 自転車2台
21	150(80)	自小作・地主	16(5)	3			1	10	10	1	長工1人
11	120(150)	自作・地主	2(1)	4		1		12	7	1	長工4人, 自転車1台
107	105(95)	自小作・労働	27(6)		1		2	20	5	2	大工, 長工2人
24	93(93)	自作	4(1)	1				6	4	2	長工1人
34	89(73)	自小作	7(2)		1			12	4	2	長工2人
36	88(64)	自小作	6(2)					3	2	1	小作地24畝は村外地
25	80(80)	自作	15(4)	2			1	6		2	長工2人
37	72(62)	自小作	10(2)	2				6	5	1	—
35	70(40)	自小作	6(1)	0.5				7	6	1	—
26	63(63)	自作	4(2)	3				8	8	2	長工1人

典拠)表6-1に同じ。

表6-2を見てみると, 経営面積50.1畝以上層11戸のうち, 上位3戸が地主を兼ね, しかも, 上位2戸は小作農をも兼ね, この2戸を含む自小作農が7戸(63.6%)おり, 地主を兼ねる1戸を含む自作農4戸を上回っていた。そして, 自作農の割合は, 100.1畝以上層が地主を兼ねる1戸(25%), 50.1~100畝層が3戸(42.8%)だった。一方, 平均所有面積が100畝にも達していたが, 小作地率は13.6%だった。なお, 8戸(72.5%)が長工(1戸平均2.2人)を雇っていたが, 経営面積100.1畝以上の4戸のうち同村内最大の経営面積(240畝)・所有面積(300畝)を有する調査番号19は家族の人数と家族内労働力数も最多だった上に, 5人の長工を雇備しており, また, 調査番号21も調査番号

19について家族人数と家族内労働力数が多い上に、1人の長工を雇っていたのに対して、調査番号11は家族の人数と家族内労働力数が少ないが、4人の長工を雇っていた。また、馬・騾馬を所有する農家が3戸(3頭)・2戸(4頭)と極めて少なく、牛・驢馬を所有する農家も8戸(17.5頭)・5戸(6頭)にとどまっており、鶏を所有する農家は9戸(1戸平均5.6羽)にすぎないのに対して、豚と犬は全農家が所有していた。そして、経営面積100畝以上の4戸(調査番号19・21・11・107)は、家畜の所有数も32(7頭・25匹)・25(4頭・11匹・10羽)・25(5頭・13匹・7羽)・30(3頭・22匹・5羽)とかなり多かった。さらに、家族の平均人数は10.5人とかなり多く、家族内労働力数は、2人が最多の4戸(36.3%)だったが、調査番号19・21・107が11人・5人・6人

表6-3. 小営村における経営面積20.1~50畝層27戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	職業等	家族人数 (労働力数)	家畜数					備考
				牛	驢馬	豚	鶏	犬	
27	50(50)	自作	9(1)		1	4		1	長工1人
38	48(30)	自小作	2(1)		1	2	2		—
14	40.5(74.5)	自作・地主	4(2)	1	2	6	8	1	長工1人
13	40(80)	自作・地主	6(2)	1	1	3		3	長工1人
28	40(40)	自作	10(9)	1	2	6	3	1	短工人
126	40(0)	小作	8(1)		1	1	1	1	—
49	39(6)	小自作	6(1)	1		2	5	1	—
39	36(25)	自小作	3(1)		1	2	3	1	—
113	36(3)	小自作・労働	12(3)		1	3	4	1	大工
109	35(8)	小自作・労働	2(1)		1	2	2	1	大工
29	32(32)	自作	9(2)		1	3			長工0.5人
46	32(7)	小自作	9(4)	1	1	9	6	2	長工(小)1人
114	31(28)	自小作・商業	8(2)	1	1	2	4	2	飲食店、長工1人
10	30(270)	自作・地主	6(1)	1	1	4		2	長工2人(女1人)
20	30(143)	自小作・地主	6(2)		1	1	8		長工1人
42	28(10)	小自作	5(1)	1	1	2	2	1	—
40	27(22)	自小作	4(1)		1	2	2	1	長工(小)1人
30	25(25)	自作	6(2)				2		—
110	25(7)	小自作・労働	7(1)		1	3	2	1	大工
31	23(23)	自作	5(2)		1		4	1	長工0.5人
44	23(9)	小自作	6(2)		1	2	5	1	—
47	23(7)	小自作	5(2)		1	1	2	1	—
56	23(3)	小自作	7(3)			1	1	4	—
108	23(17)	自小作・労働	3(3)		2	2	3	1	大工
135	23(4)	小自作・労働	4(2)		1		1	1	—
51	22(5)	小自作	3(1)		1	2	2		—
121	22(22)	自作・労働	7(3)		1	1	4		裱糊匠

典拠) 表6-1に同じ。

と突出しており、平均すると3.4人とかなり多かった。なお、地主を兼ねる調査番号19・11の農家は自転車を各々2台・1台所有している。

表6-3を見てみると、経営面積20.1~50畝層27戸のうち、小作農は1戸のみだが、自小作農と小自作農が計17戸(62.9%)と多数を占め、小作地率は38.1%だった。また、馬・騾馬を所有する農家が1戸もなく、牛を所有する農家も8戸(8頭)と少ないが、驢馬・豚・鶏・犬を所有する農家が24戸(88.8%, 27頭)・24戸・23戸・21戸と大部分を占めていた。さらに、家族の平均人数は6人と標準的で、家族内の平均労働力数は2人とやや多いが、長工を雇用する農家は10戸にも及び、同村内最大の地主だった調査番号10(所有地270畝のうち小作地が240畝)が2人の長工を雇用する以外は、雇用する人数は1人以下だった。なお、4戸が大工を兼ねていた。

表6-4を見てみると、同村では、経営面積15.1~20畝層21戸のうち、小作農が6戸で、自小作農と小自作農が計8戸おり、小作地率は52.2%と高かった。また、馬・牛・驢馬を所有する農家は6戸(6頭)・2戸(1頭)・6戸(6

表6-4. 小菅村における経営面積15.1~20畝層21戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	職業等	家族人数 (労働力数)	家畜数					備考
				牛	馬	豚	鶏	犬	
16	20(36)	自作・地主	6(6)	0.5	1	0.5	1		—
17	20(36)	自作・地主	5(1)	0.5	1	0.5	2		—
43	20(10)	自小作	6(4)		1	3		1	—
48	20(7)	小自作	4(1)		1	1		1	—
50	20(5)	小自作	5(2)		1	2	3	1	—
127	20(0)	小作	5(1)			2	2	1	—
128	20(0)	小作	4(2)		1	1	2	1	—
54	19(4)	小自作	5(1)			2			—
59	19(19)	自作・農労	6(1)		1	1	3	1	—
32	18(18)	自作	4(1)		1	1	2	1	—
41	18(14)	自小作	9(4)		1	2	3		—
57	18(3)	小自作	6(3)		1	1	6	1	—
60	18(18)	自作・農労	9(2)		1	1	4	1	—
129	18(0)	小作	5(2)			1		1	—
18	17(25)	自作・地主	5(1)				1		—
12	16(90)	自作・地主	6(2)		1	2	3	2	長工(女)1人
45	16(8)	自小作	7(2)			1			獣医
103	16(3)	自小作・農労	6(1)				1	2	—
130	16(0)	小作	4(1)			3	1	1	—
131	16(0)	小作	3(1)			1	2		—
132	16(0)	小作	6(1)			1	2		—

典拠) 表6-1に同じ。

頭)にすぎず、豚・鶏・犬を所有する農家は19戸・16戸・13戸いた。さらに、家族の平均人数は5.2人とやや少なく、家族内労働力数は、調査番号16が6人と突出しており、平均すると1.9人とやや多かった。なお、長工を雇用する農家は、所有する90畝の大部分を小作地とする1戸(調査番号12)のみだった。

表6-5を見てみると、経営面積10.1~15畝層24戸のうち、小作農が5戸、小自作農が12戸(50%)おり、小作地率は52.3%と高かった。また、牛を所有する農家は1戸のみで、馬を所有する農家は9戸(8.5頭)にすぎなかったが、豚・鶏・犬を所有する農家は19戸(25匹)・20戸(42羽)・18戸(21匹)だった。さらに、家族の平均人数は4.6人とかなり少なく、家族内の平均労働力数は1.6人だった。

表6-6を見てみると、経営面積5.1~10畝層32戸のうち、16戸(50%、地主を兼ねる1戸を含む)が自作農で、一方、17戸(53.1%)が雇農を兼ね、小作地率は41%だった。また、牛・驢馬を所有ないし共有する農家も2戸(1.5頭)・

表6-5. 小営村における経営面積10.1~15畝層24戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	職業等	家族人数 (労働力数)	家畜数					備考
				牛	馬	豚	鶏	犬	
52	15(5)	小自作	4(1)			2	1	1	—
122	15(15)	自作・労働	6(3)		0.5	1	4	1	襪糊匠
61	14(14)	自作・農労	6(2)			1	1	1	—
101	14(4)	小自作・農労	7(2)		1	1		1	—
112	14(5)	小自作・農労	1(1)			1	3	1	理髮屋
136	14(0)	小作・労働	6(4)		1		1		—
53	13(5)	小自作	3(2)			1	1	1	—
97	13(5)	小自作・農労	6(2)				1	2	—
102	13(3)	小自作・農労	7(3)	1	1	1	3	1	—
119	13(2)	小自作・商業	8(1)		1	1	2	1	雜貨屋
133	13(0)	小作・商業	6(1)			1	4	2	飲食店
62	12(12)	自作・農労	6(2)		1	1	3	1	—
137	12(0)	小作・労働	5(2)						—
138	12(0)	小作・労働	3(1)			2	3	1	—
95	11.5(5.5)	小自作・農労	5(1)			2	2	1	—
58	11(2)	小自作	3(2)			1	1		—
94	11(5)	小自作・農労	4(1)			1	1	1	—
96	11(5)	小自作・農労	3(2)				1		—
105	11(1)	小自作・農労	6(1)		1	3	2	1	—
123	11(11)	自作・労働	5(2)		1	2	2	1	理髮屋
134	11(0)	小作	5(1)			1	4	2	肉屋
22	10.5(16.5)	自作・労働・地主	1(1)						—
33	10.5(10.5)	自作	5(1)			2			—
63	10.5(10.5)	自作・農労	5(2)		1	1	3	1	—

典拠) 表6-1に同じ。

表6-6. 小宮村における経営面積5.1~10畝層32戸の状況

調査番号	経営面積 (所有面積)	職業等	家族人数 (労働力数)	家畜数					備考
				牛	驢馬	豚	鶏	犬	
15	10(57)	自作・地主	5(0)		1	2		1	長工0.5人
55	10(3)	小自作	3(1)		1	1	2	1	
64	10(10)	自作・農労	5(2)			1	2		—
65	10(10)	自作・農労	3(2)				1		—
66	10(10)	自作・農労	12(3)				5		—
98	10(5)	自小作・農労	1(1)		1				—
99	10(5)	自小作・農労	4(3)						—
100	10(4)	自小作・農労	3(1)			1	1		—
111	10(5)	自小作・労働	4(1)		1	3	2	1	大工
115	10(10)	自作・商業	5(2)		1	3	1	1	雑貨屋
124	9(9)	自作・労働	3(1)		0.5	2	3	1	裱糊匠
139	9(0)	小作・労働	2(0)		0	0	1	0	
140	9(0)	小作・労働	6(2)		0	1	2	1	
67	8(8)	自作・農労	6(2)		1	3	4	1	
68	8(8)	自作・農労	6(2)		0	1	2	1	
69	8(8)	自作・農労	5(1)	1	0	1	2	1	
106	8(1)	自小作・農労	7(1)		0	2	2	1	
141	8(0)	小作・労働	4(1)		0	0	0	0	
142	8(0)	小作・労働	4(1)		0	0	2	0	
70	7(7)	自作・農労	5(2)		0	1	0	0	
71	7(7)	自作・農労	2(1)		0	0	2	1	
72	7(7)	自作・農労	5(1)		0	0	4	1	
104	7(2)	自小作・農労	5(2)		1	1	3	1	
143	7(0)	小作・労働	4(4)		0.5	2	3	0	
144	7(0)	小作・労働	5(2)		0	1	3	1	
73	6(6)	自作・農労	5(1)		0	0	2	0	
74	6(6)	自作・農労	6(3)	0.5	0.5	2	2	1	
116	6(6)	自作・商業	3(1)		1	2	0	1	豆腐屋
145	6(0)	小作・労働	3(2)		0	1	0	0	
146	6(0)	小作・労働	5(1)		0	1	3	1	
147	6(0)	小作・労働	5(1)		0	2	1	0	
75	5.5(5.5)	自作・農労	5(1)		0	1	1	1	

典拠) 表6-1に同じ。

11戸(9.5頭)と少なく、豚・鶏を所有する農家は22戸・26戸にすぎず、犬は18戸(56.2%)が各1匹を所有するだけで、経営面積規模と家畜の所有数との間には相関関係はほとんど見られなかった。さらに、家族の平均人数は4.5人と少なく、家族内平均労働力数は1.5人だった。なお、長工を雇用する農家は1戸のみだった。

表6-7を見てみると、経営面積5畝以下層30戸のうち、自作農が22戸(73.3%、地主を兼ねる1戸を含む)で、そのうち18戸(81.8%)が雇農を兼ねて

表 6-7. 小宮村における経営面積 5 畝以下層 30 戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	職業等	家族人数 (労働力数)	家畜数				備考
				驢馬	豚	鶏	犬	
76	5(5)	自作・農労	2(1)	0	0	2	0	
77	5(5)	自作・農労	5(2)	0	1	3	0	
78	5(5)	自作・農労	5(1)	0	0	1	1	
79	5(5)	自作・農労	4(1)	0	0	2	1	
80	5(5)	自作・農労	3(2)	0	1	2	1	
117	5(5)	自作・商業	3(1)	0	0	0	1	肉屋
148	5(0)	小作・労働	6(2)	0	2	4	1	
149	5(0)	小作・労働	6(3)	0	0	1	0	
150	5(0)	小作・労働	5(1)	0	0	2	0	
81	4.5(4.5)	自作・農労	5(1)	1	1	3	1	
82	4.5(4.5)	自作・農労	3(1)					
83	4(4)	自作・農労	4(2)		1	2	1	
84	4(4)	自作・農労	10(2)		2	2	1	
85	4(4)	自作・農労	4(1)	1		2		雑貨屋
120	4(1)	小自作・商業	6(2)					
86	3(3)	自作・農労	2(1)					
87	3(3)	自作・農労	2(1)		2	4	1	
88	3(3)	自作・農労	7(1)					
89	3(3)	自作・農労	4(2)		1	3	1	
151	3(0)	小作・労働	8(2)					
152	3(0)	小作・労働	1(1)					編筐屋
90	2.5(2.5)	自作・農労	8(2)			2		
91	2.5(2.5)	自作・農労	4(1)			1	1	
23	2(6)	自作・労働・地主	5(1)					—
125	2(2)	自作・労働	2(1)					裱糊匠
153	2(0)	小作・労働	4(2)			2		
154	2(0)	小作・労働	3(1)		2	1		
92	1.5(1.5)	自作・農労	3(1)					
118	1.5(1.5)	自作・商業	3(1)					旅館
93	1(1)	自作・農労	4(1)					

典拠) 表 6-1 に同じ。

いた。一方、無所有戸が 7 戸 (23.3%) あり、小作地率は 26.6% だった。また、驢馬・豚・鶏・犬を所有する農家は 2 戸 (2 頭)・9 戸・18 戸・11 戸にすぎなかった。さらに、家族の平均人数は 4.3 人とやや少なく、家族内の平均労働力数は 1.4 人だった。

以上のことから、密雲県小宮村では、大規模経営農家が多数いたが、自作農の割合は、100.1 畝以上層が 25%、50.1~100 畝層が 42.8%、20.1~50 畝層が 33.3%、15.1~20 畝層が 33.3%、10.1~15 畝層が 29.1%、5.1~10 畝層が 50%、5 畝以下層が 73.3% で、零細自作農化が進行しつつあった。だが、自小作農

の割合は、100.1畝以上層が75%で最も高く、これに50.1～100畝層が57.1%とつぐことから、50.1畝以上層では経営規模拡大のための小自作農化が進行していたのに対して、小自作農の割合は、10.1～15畝層が45.8%で最も高く、これに20.1～50畝層が40.7%とつぐことから、10.1～50畝層では経営規模拡大のための小自作農化が進行していたことがわかる。一方、小作地率は、50.1畝以上層が13.6%、20.1～50畝層が38.1%、15.1～20畝層が52.2%、10.1～15畝層が52.3%、5.1～10畝層が41%、5畝以下層が26.6%だった。また、牛・馬・騾馬を所有する農家は1戸もなく、驢馬・豚・鶏・犬を所有する農家も2戸(計2頭)・6戸(計9匹)・6戸(計6匹)と少なかった。さらに、家族の平均人数・家族内の平均労働力数は、50.1畝以上層が10.5人・3.4人、20.1～50畝層が6人・2人、15.1～20畝層が5.2人・1.9人、10.1～15畝層が4.6人・1.6人、5.1～10畝層が4.5人・1.5人、5畝以下層が4.3人・1.4人、非農家が3.5人・1.1人で、家族の人数・家族内労働力数と経営面積との間には正の相関関係が見られた。なお、大車を所有する家が1戸もなかったばかりでなく、自転車を所有する家も大土地所有者・大規模経営者の2戸にすぎなかった。

(4) 昌黎県中両山

中両山に関する調査資料には、家族の人数、家族内労働力数、家畜数が記載されているのみである。

表7-1を見てみると、非農家25戸のうち、雇農と商業従事者が各々5戸にすぎず、乞食が15戸(60%)にも達することから、同村では脱農化はそれほど進行していたとは言えない。ただし、乞食が多かったことと農村経済発展との関係は今後の課題である。また、家族の平均人数は4.1人と少なかった。そして、5戸の雇農の家族内平均労働力数は1.4人だった。

表7-1. 中両山における非農家25戸の状況

職業等	調査番号	家族人数(労働力数)
農業労働	106～110	4(1), 4(1), 4(2), 5(1), 5(2)
商業出外	111～115	2, 3, 6, 4, 8
乞食	116～130	2, 4, 2, 6, 3, 6(1), 3, 7, 4, -, 7, 2, 4, 3, 1

典拠)『冀東地区内二十五箇村農村実態調査報告』第一部下、266～273頁より作成。なお、筆者が調査対象戸の記載順に調査番号を付した。

表7-2. 中兩山における経営面積20.1畝以上層38戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	地主 貸出	階層等	家族人数 (労働力数)	家畜数					
						牛	騾馬	驢馬	豚	鶏	犬
68	159(159)			自作	5(2)						
4	100(200)		100	地主・自作	8(4)		1		5	2	5
6	71(71)			自作	17(2)	2		1	4	2	
25	55(55)			自作	4(2)			1			1
37	51(51)			自作	7(2)			1			2
58	48(48)			自作	5(1)						
32	45(45)			自作	7(2)			1			2
23	43(43)			自作	8(2)			1		2	1
3	41(51)		10	地主・自作	7(1)			1		3	1
42	41(41)			自作	5(0)					3	1
21	40(40)			自作	4(1)					3	2
57	40(40)			自作	3(0)						
72	40(40)			自作	9(2)					4	1
43	37(37)			自作	4(2)				2		1
19	35.5(35.5)			自作	9(1)			1		3	1
16	35(35)			自作	7(1)					3	2
5	30(50)		20	地主・自作	7(1)					3	2
13	30(30)			自作	7(2)			1		3	1
17	30(30)			自作	5(1)			1		2	1
22	30(30)			自作	14(1)						2
31	30(30)			自作	10(2)			1			2
45	30(30)			自作	12(1)			1		1	1
100	30(0)	30		小作	5(1)					2	
52	29(29)			自作	12(1)			1	3		1
8	28(28)			自作	7(0)					3	1
28	28(28)			自作	6(1)			1	3		1
38	28(28)			自作	7(1)					3	1
85	28(8)	20		小自作	11(2)				2	3	1
41	27(27)			自作	6(2)						1
49	25(25)			自作	7(2)			1		1	1
61	25(25)			自作	8(2)						
24	24(24)			自作	6(1)					1	1
64	23(23)			自作	4(1)					2	1
55	22.5(22.5)			自作	0(0)						
83	22(11)	11		自小作	11(2)			1		2	
54	21(21)			自作	2(0)					2	1
79	21(6)	15		小自作	8(1)					1	1
94	21(0)	21		小作	8(2)					1	1

典拠) 表7-1に同じ。

表7-2を見てみると、経営面積50.1畝以上層5戸のうち、自作農の割合が100% (地主を兼ねる1戸を含む)で、家族の平均人数と家族内平均労働力数は8.2人と2.4人で、多かった。また、経営面積で第2位の農家(調査番号4)

が騾馬1頭を所有し、経営面積で第3位の農家(調査番号6)が牛2頭を所有し、驢馬を所有する農家は3戸いたが、豚・鶏を所有する農家は各々2戸にすぎないのに対して、犬を所有する農家は3戸いた。一方、経営面積20.1～50畝層33戸のうち、自作農の割合は84.8% (地主を兼ねる2戸を含む)だったが、土地無所有戸は2戸(6%)にすぎず、小作地率も9.1%にすぎなかった。また、家族の平均人数は7人とやや多く、家族内平均労働力数は1.2人だった。さらに、驢馬を所有する農家が12戸(各戸1頭)、豚を所有する農家が4戸(10匹)にすぎないのに対して、鶏を所有する農家が22戸(66.6%, 52羽)、犬を所有する農家が27戸(81.8%, 33匹)だった。

表7-3を見てみると、経営面積15.1～20畝層20戸のうち、12戸(60%)が自作農で、小作地率は35.3%だった。また、家族の平均人数は6.3人とやや多く、家族内平均労働力数は1.1人だった。さらに、驢馬を所有する農家は3戸にすぎず、鶏・犬を所有する農家は8戸(40%)・15戸(75%)いたが、家畜数はやや少なかった。一方、経営面積10.1～15畝層17戸のうち、自作農が7戸(41.1%, 地主を兼ねる2戸を含む)、小作農が4戸おり、小作地率は44.2%だった。また、家族の平均人数は5.2人とやや少なく、家族内平均労働力数は1人だった。さらに、驢馬1頭と豚1匹を所有する農家が各1戸にすぎず、鶏・犬を所有する農家は7戸(41.1%, 18羽)・12戸(70.5%, 13匹)だった。

表7-4を見てみると、同村では、経営面積5.1～10畝層13戸のうち、9戸(69.2%)が自作農で、小作地率は26.5%だった。また、家族平均人数と家族内の平均労働力数は5.9人と0.9人で、やや少なかった。さらに、鶏・犬を所有する農家が4戸(7羽)・5戸(5匹)にすぎなかった。一方、経営面積5畝以下層17戸のうち、15戸(88.2%)が自作農で、小作地率は14.7%にとどまった。また、家族の平均人数・家族内平均労働力数は4.7人・0.7人と少なかった。さらに、大型家畜と豚を所有する農家は1戸もなく、鶏・犬を所有する農家も2戸(4羽)・2戸(2匹)にすぎなかった。

以上のことから、昌黎県中両山では、自作農の割合は、50.1畝以上層が100%、20.1～50畝層が84.8%、15.1～20畝層が60%、10.1～15畝層が41.1%、5.1～10畝層が69.2%、5畝以下層が88.2%で、大経営と零細経営において自作農の割合が高かった。一方、小作地率は、50.1畝以上層が0%、20.1～50畝層が

表7-3. 中兩山における経営面積10.1~20畝層37戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	階層等	家族人数 (労働力数)	家畜数			
					驢馬	豚	鶏	犬
35	20(20)		自作	8(1)			1	2
67	20(20)		自作	6(1)			2	1
70	20(20)		自作	10(1)			1	1
82	20(5)	15	小自作	5(1)				1
74	20(20)		自作	4(1)	1		3	1
89	20(10)	10	自小作	8(3)	1		3	1
95	20(0)	20	小作	6(2)				1
96	20(0)	20	小作	4(1)				
102	20(0)	20	小作	8(2)				1
73	19(19)		自作	3(1)				1
84	18.5(3.5)	15	小自作	8(1)	1		4	1
40	18(18)		自作	8(0)			3	1
63	18(18)		自作	4(1)				
71	18(18)		自作	2(0)				
76	18(18)		自作	5(1)				
34	17(17)		自作	11(1)				1
11	16(16)		自作	10(1)			2	1
56	16(16)		自作	5(1)				1
104	16(0)	16	小作	4(1)				1
90	16(1)	15	小自作	7(1)				
1	15(25)		地主・自作	8(1)				1
50	15(15)		自作	5(0)			2	1
88	15(10)	5	自小作	6(1)				1
92	15(0)	15	小作	5(2)				
101	15(0)	15	小作	2(1)				
103	15(0)	15	小作	4(1)				1
105	15(0)	15	小作	4(1)				1
2	14(24)		地主・自作	6(1)			2	1
87	14(9)	5	自小作	5(1)				1
81	13.5(8.5)	5	自小作	5(1)			3	1
7	13(13)		自作	6(1)		1	3	2
86	12(2)	10	小自作	5(1)				1
51	11(11)		自作	10(1)			4	1
53	11(11)		自作	3(1)				
78	11(1)	10	小自作	8(1)	1		1	
91	11(6)	5	自小作	4(1)				1
9	10.5(10.5)		自作	4(1)			3	

典拠) 表7-1に同じ。

9.1%, 15.1~20畝層が35.3%, 10.1~15畝層が最高の44.2%, 5.1~10畝層が26.5%, 5畝以下層が14.7%だった。また、家族の平均人数と家族内平均労働力数は、50.1畝以上層が8.2人・2.4人, 20.1~50畝層が7人・1.2人, 15.1~20畝層が6.3人・1.1人, 10.1~15畝層が5.2人・1人, 5.1~10畝層が5.9人・0.9人,

表7-4. 中両山における経営面積10畝以下層30戸の状況

調査 番号	経営面積 (所有面積)	小作 借入	階層等	家族人数 (労働力数)	家畜数	
					鶏	犬
93	10(0)	10	小作	3(1)		
97	10(0)	10	小作	6(1)		
99	10(0)	10	小作	3(1)		1
33	8(8)		自作	7(1)		1
60	8(8)		自作	4(1)		
65	8(8)		自作	7(1)	2	1
15	7.5(7.5)		自作	12(0)	2	
29	7.5(7.5)		自作	1(1)		
77	7.5(2.5)	5	小自作	3(1)	2	1
14	7(7)		自作	5(1)		
18	7(7)		自作	5(1)		
48	6(6)		自作	16(1)	1	1
36	5.5(5.5)		自作	5(1)		
20	5(5)		自作	1(0)		
26	5(5)		自作	5(1)		
46	5(5)		自作	4(1)		
75	5(5)		自作	6(1)		
69	5(5)		自作	4(1)		
80	5(1)	4	小自作	2(1)		
98	5(0)	5	小作	6(1)		
59	4.5(4.5)		自作	2(0)		
10	4(4)		自作	5(0)	2	
44	3(3)		自作	2(1)		
47	3(3)		自作	7(1)		
12	2.5(2.5)		自作	8(1)	2	1
30	2(2)		自作	8(1)		
39	2(2)		自作	3(1)		
62	2(2)		自作	6(2)		
66	2(2)		自作	6(0)		
27	1(1)		自作	6(0)		1

典拠) 表7-1に同じ。

5 畝以下層が4.7人・0.7人、非農家が4.1人・1.4人で、非農家を除くと、経営面積と家族の人数・家族内労働力数との間には正の相関関係が見られる。さらに、馬を所有する農家は1戸もなく、牛や騾馬を所有する農家も少なく、豚を所有する農家は驢馬を所有する農家よりも少なく、経営面積と家畜数との間にも正の相関関係を見出すことができるが、家畜数は少なかった。

おわりに

以上の 6 県 7 ヶ村について、脱農化が進行している(非農家の割合が高い)順番は、灤県雷家荘(46.7%)、平谷県小辛寨(24.2%)、撫甯県邴各庄(21.2%)、昌黎県中両山(19.2%)、遵化県盧家寨(18.4%)、撫甯県王各庄(18.3%)、密雲県小営村(5.2%)となり、また、零細農化が進行している(経営面積20.1畝層の割合が低い、経営面積10畝以下層の割合が高い)順番は、灤県雷家荘(4.8%、82.9%)、平谷県小辛寨(17.4%、66.6%)、遵化県盧家寨(15.3%、54.6%)、撫甯県邴各庄(17.9%、51.6%)、撫甯県王各庄(22.4%、44.8%)、密雲県小営村(35.5%、57.9%)、昌黎県中両山(36.1%、28.5%)となる。

そして、零細自作農化が進行した農村は、灤県雷家荘(4.8%、82.9%)、遵化県盧家寨(15.3%、54.6%)、撫甯県王各庄(22.4%、44.8%)、密雲県小営村(35.5%、57.9%)で、また、零作小作農化が進行した農村は平谷県小辛寨(17.4%、66.6%)で、さらに、零細自作農化と零細小作農化が並進した農村は撫甯県邴各庄(17.9%、51.6%)で、あるいは、零細農化の進行が緩慢で、どちらとも断定しがたい農村は昌黎県中両山(36.1%、28.5%)だった。

以上、灤県雷家荘が脱農化・零細農化が最も進行した農村であり、非農家の割合が高いだけでなく、兼業も含めて農業外就労の機会が多くなっているという特徴が見られた。

注

- 1) 拙稿「中華民国前期冀東地区における農村経済の概況」(『金沢大学経済論集』第34巻第1号、2013年12月)。

